

仕様書②

静岡県立こころの医療センター 清掃等業務仕様書

平成 30 年 10 月 1 日から平成 33 年 9 月 30 日までの期間の静岡県立こころの医療センター（以下「甲」という）における清掃業務は、契約書に定めるもののほか、本仕様書、作業対象箇所一覧表、受託者（以下「乙」という）の作成した企画提案書（標準作業書、業務実施計画書等に関連文書を含む。）（以下、「仕様書等」という。）に基づき実施する。

なお、仕様書等に記載のない事項についても、建物の管理上及び美観上必要と認められる軽微な作業については、委託額の範囲内で実施すること。

1 目的

この仕様書は、甲の美観及び衛生的な状態を維持し、院内感染及び事故の防止等を図ることにより、利用者及び当院職員等の快適性・安全性を良好な状態に保つことができるよう、必要な事項を定めるものである。

2 一般事項

(1) 清掃作業等時間

原則として、8：00～17：15 の間で実施すること（防虫・防鼠業務は別に定める）。ただし、場所によっては時間外の実施を認めることもあるので、甲と協議すること。

(2) 留意事項

- ① 病棟内で作業を開始する際は、医療安全上の配慮から、看護師長等に申し出て指示に従うこと。病棟内の清掃は 2 人 1 組での作業を基本とし、詳細については甲と協議すること。
- ② 作業は、甲の病院業務の妨げにならないよう十分に配慮すること。
- ③ 清掃器具等により、医療機器や家具、ロッカーなどを損傷しないよう十分注意すること。
- ④ 清掃にあたり移動させた物は、作業後に元の位置に戻すこと。
- ⑤ ゴミの回収、運搬、バイオハザードマークの表示がある感染性廃棄物を取扱う作業等に際しては、必ずディスポ手袋を着用すること。また、必要に応じてマスクの着用等、必要な措置をとること。

(3) 防虫・防鼠業務

建築物等において、ねずみ・昆虫等、人の健康を損なう事態を生じさせるおそれのある動物に関する調査を行うこと。

調査結果に基づき、健康リスクや環境負荷を考慮した有効で適切な技術等により、駆除・防除を行い、総合的有害生物管理（I P M）に基づく水準を維持し、衛生的環境の確保を図ること。

(4) 清掃等資機材等

- ① 清掃作業に使用する機械・器具、材料、消耗品（洗剤・薬品等）はあらかじめ、甲に文書で提示し、甲の承認を得ること。
- ② 洗剤・薬品等は、清掃部分の材質を傷めずに汚れを除去できるもので、清掃作業員の人体及び環境に配慮したものを使用すること。

- ③ 使用する資機材は、品質良好なものを用い、洗剤や消毒などにより常に衛生状態に注意し、清掃箇所に応じたものを使用すること。
- ④ 「保護室・HCU・観察室」「それ以外の部屋・廊下」「トイレ」等に区分し、清潔箇所・不潔箇所での混用しないこと。区分箇所等については委託業務開始までに甲乙間で協議するものとする。
- ⑤ 資機材及び消耗品、トイレットペーパーやペーパータオル、水石鹸等の衛生消耗品等は、甲の指示した場所に整理し保管すること。
- ⑥ モップの取扱は、リレー方式※とすること。
- ⑦ 移動式清掃車（モップカート）、ゴミ運搬用カートは乙の負担にて必要台数を用意すること。

※ リレー方式：現場でその都度洗うのではなく、必要な本数をあらかじめ準備して使用する。作業終了後、まとめて洗濯する。

(5) 設備等の貸与及び支給品

施設	休憩室：管理診療棟地下1階 資機材置き場：管理診療棟地下1階
備品	洗濯機、乾燥機
支給品	トイレットペーパー、ペーパータオル、ハンドソープ等の補充品

(6) 業務の報告

清掃並びに調査及び防除業務終了後は、指定された日及び様式等により報告すること。

(7) 鍵の取扱い

清掃作業員には、病棟内各室への出入りに必要な病棟マスターキーを貸与するので、毎日、守衛室にて鍵の授受を行うこと。

病棟以外の部屋の出入りについては、清掃の都度、必要な鍵を借り受け、清掃作業終了後は、甲に鍵を返却すること。

また、鍵を紛失しないよう取扱いには十分注意するものとし、万一、鍵を紛失した場合は、乙の負担において、院内全てのキーシリンダーの交換を行うこと。

3 日常清掃業務

主に日又は週単位の短い周期で日常的に実施する。

(1) 清掃場所、清掃周期等

清掃箇所、清掃周期等は、別添「作業対象箇所一覧表」によること。

(2) 実施日

清掃場所	実施日
病棟1, 2階	外来診療実施日及び土曜日 ただし、清掃を実施しない日が連続して4日以上にならないようにすること。
その他	外来診療実施日

上記の日常清掃の実施日を「日常清掃基本実施日」と定義する。

作業頻度を1（回／日）としている箇所についても、原則として、日常清掃基本実施日以外は実施しない。ただし、別途記載があるものについては、日常清掃基本実施

日以外も実施すること。

(3) 床の日常清掃手順（「作業対象箇所一覧表」に記載した床の種類）

種類	作業項目	作業内容
弾性床 木質床	除塵	自在箒又はダスタークロスで丁寧に掃き、集めた塵芥は、所定の場所に搬出する。又は真空掃除機で丁寧に吸塵する。
	水拭き	汚れや水滴などが付着した部分を、モップで拭く。病室においては、床全面をモップで丁寧に拭きあげる。
硬質床	除塵	自在箒又はダスタークロスで丁寧に掃き、集めた塵芥は、所定の場所に搬出する。又は真空掃除機で丁寧に吸塵する。
	水拭き	床全面をモップで丁寧に拭きあげる。
繊維床	除塵	真空掃除機で丁寧に吸塵する。
	スポット クリーニング	除塵作業だけでは除去できない汚れの甚だしい区域がある場合は、部分的なクリーニングを行う。
畳	除塵	自在箒又はダスタークロスで丁寧に掃き、集めた塵芥は、所定の場所に搬出する。又は真空掃除機で丁寧に吸塵する。
	スポット クリーニング	序地理作業だけでは除去できない汚れのはなはだしい区域がある場合は、部分的なクリーニングを行う。
多目的ホール	モップがけ	床全面をモップがけする。

(4) 床以外の日常清掃手順

種類	作業項目	作業内容
ごみ収集作業	ごみ回収	ごみ箱のごみを回収し、容器の外面で汚れた部分は、タオルで水拭きをする。
壁面、扉、柱	清拭	汚れた部分がある場合は、水又は適正洗剤を用いて拭く。
手すり、 ドアノブ	清拭	タオルで水拭きする。もしくは、適正洗剤又は殺菌剤入りダスター等を用いて丁寧に拭く。
トイレ・ 洗面所	洗面台・水栓拭き	スポンジで適正洗剤を塗布して洗浄し、タオルで拭く。
	鏡拭き	適正洗剤を用いて拭き、乾拭きして仕上げる。
	衛生器具洗浄	適正洗剤を用いて洗浄し、拭く。
	衛生消耗品補充	トイレットペーパー、水石鹸等を補充する。
	汚物容器 汚物収集	内容物を収集し、容器の外面で汚れた部分は、タオルで水拭き及び乾拭きをする。
流し台	洗浄	中性洗剤を用いて、スポンジたわしで丁寧に洗

		淨し、タオルで拭く。
	厨芥容器 厨芥回収	厨芥を回収する。 容器を中性洗剤で洗淨する。
	衛生器具洗淨	適正洗剤を用いて洗淨し、拭く。
浴室・ シャワー室	浴槽・浴室、 シャワー室洗淨	適正洗剤を用い、ブラッシングとスポンジ掛け を行い、十分にすすぐ。 水垢・カビの発生を防ぐため、適宜、漂白洗淨 剤等で除菌する。万一、カビ等が発生した場合 は、直ちに除去すること。
フロアマット	除塵	真空掃除機で丁寧に吸塵する。
公衆電話	清拭	電話機や設置台を消毒液に浸した布で拭き、設 置台上を整頓する。

(5) 廃棄物等処理作業

種類	作業項目	作業内容
可燃物	可燃物搬出	各所の塵芥・吸殻・厨芥などを区分して運搬す る。
	可燃物処理	地下ドライエリア内のごみ貯留システム（ゴミ ック）に一定量を投函する。
不燃物 （ビン・カン等）	不燃物搬出 （ビン・カン等）	各所のビン、カン等の不燃物を区分し、地下ド ライエリアに運搬する。
古紙	古紙搬出	各所の古紙を分別し、地下ドライエリアに運搬 する。
ペットボト ル、プラスチ ックごみ	ペットボトル、 プラスチックご み搬出	各所で分別されたペットボトル、プラスチック を、地下ドライエリアに運搬する。
感染性廃棄物	感染性 廃棄物搬出	各所の感染性廃棄物は、敷地北西の集積場へ運 搬する。 注射針等鋭利物、危険物はポリ製のペール缶を使 用すること。

(6) 建物外部の日常清掃

種類	作業項目	作業内容
ドライエリア	巡回清掃	巡回して粗ごみを拾う。ゴミック周辺は、適宜 水洗いを行う。 （ごみが散らかりやすく、生ごみを取り扱うた め） 夏季は害虫が発生しやすいため、適宜薬剤散布 等の対策を行うこと。（一般産業廃棄物回収業 者のビン・カン類回収は原則月1回）
構内通路・ 駐車場・中庭	巡回清掃	構内通路、駐車場、中庭を巡回し、ゴミや落ち 葉がある場合は回収する。

病棟の バルコニー 非常階段	巡回清掃	巡回して粗ごみを拾う。 こけなどが付着して滑りやすくなっている場合は、ブラシや洗浄機でこすり落とす。
病院周辺道路	巡回清掃	外周道路を巡回し、ゴミや落ち葉がある場合は回収する。

(7) 臨時清掃

病院担当者の指示に基づき、指定する場所のスポット清掃や、急な要請のあった清掃への対応等を行う。

(8) 日常清掃基本実施日以外の清掃

- ① 作業対象箇所一覧表に記載のある箇所は巡回し、ごみ収集作業を行う。また、目立った汚れがある場合や、トイレ・洗面所において衛生消耗品の欠品がある場合は日常清掃を実施する。
- ② 浴室の利用があった場合は、日常清掃を実施する（病棟1、2階）。
- ③ 廃棄物等処理作業を実施する。

4 定期清掃業務

主に月単位の周期で定期的を実施する。

(1) 清掃場所、清掃周期等

床の定期清掃の場所ごとの清掃周期等は、別添「作業対象箇所一覧表」による。
窓ガラス、網戸の定期清掃は、病院全体を対象とする。

(2) 実施日

原則として、病院の外来診療日（開院日）以外の日に実施すること。

(3) 床の定期清掃（「作業対象箇所一覧表」に記載した床の種類ごとに区分）

種類	作業項目	作業内容
弾性床 硬質床	表面洗浄	<ol style="list-style-type: none"> ① 洗浄水の侵入のおそれのある箇所は、適正な養生を行う。 ② 椅子等軽微な什器の移動を行う。 ③ 床面の除塵を行う。 ④ 適正に希釈した表面洗浄用洗剤を、むらのないように床面に塗布する。 ⑤ 洗浄用パッドを装着した床磨き機で、皮膜表面の汚れを洗浄する。 ⑥ 吸水用真空掃除機又は床用スクイジーで汚水を除去する。 ⑦ 2回以上水拭きを行い、汚水や洗剤分を除去した後、十分に乾燥させる。 ⑧ 樹脂床維持剤を、塗に残しや塗りむらのないように格子塗りし、十分に乾燥する。（塗布回数は、原則として格子塗り1回） ⑨ 移動した椅子等軽微な什器を元の位置に戻す。

繊維床	表面洗浄	① 洗浄水の侵入のおそれのある箇所は、適正な養生を行う。 ② 椅子等軽微な什器の移動を行う。 ③ 床面の除塵を行う。 ④ カーペット床全面を洗浄し、丁寧に汚れを除去する。 ⑤ 移動した椅子等軽微な什器を元の位置に戻す。
-----	------	---

(4) 窓ガラス、網戸の定期清掃

種類	作業項目	作業内容
窓ガラス 2,559 m ² 349 箇所	洗浄	① ガラス面に適正に希釈した中性洗剤を塗布し、汚れを除去して、ガラススクイージーで汚水を切る。 ② ガラス面の隅の汚水をタオルで拭き取る。 ③ ガラス回りのサッシをタオルで清拭する。
	実施頻度	2 (回/年) (病棟3階：1 (回/年))
網戸 379 m ² 266 箇所	洗浄	① 刷毛又は真空掃除機等で建具の表面や溝の除塵を行う。 ② 専用洗剤を用いて汚れを磨き洗いして除去し、汚水を拭き取る。 ③ 水拭きを行い、乾拭きして仕上げる。 ※ 建物に固定された網戸で、水圧式の洗浄機を使用する場合は、別途協議する。
	実施頻度	1 (回/年)

5 ねずみ・昆虫等の調査

ねずみ・昆虫等の発生場所、生息場所及び進入経路、被害の状況について調査する。

調査結果の判定に基づき、発生防止対策、施設改善、防除作業等の提案書及び作業計画を作成し、甲に提出すること。

調査は、過去の調査結果や駆除状況などを参考に、調査内容、調査箇所を選定し、効率的に実施すること。

(1) 調査の範囲

管理診療棟、病棟、デイケア・リハビリ棟の全域を対象とし、専用部分、共用部分のほか、機械室、電気室、パイプシャフト室、駐車場、建築物の周囲（20メートル程度）等、建築物の内外に対して行うものとする。

ただし、エレベーター昇降路、ピット内等、普段入ることのできない箇所、高所で届かない箇所、汚水槽 (DP-1)、雑排水槽 (DP-9)、湧水槽 (DP-11) は除く。

(2) 調査時間

外来診療日（開院日）の 8:30～20:00 に実施する。

ただし、厨房においては、業務終了後（概ね 20:00 以降）に実施すること。

上記以外の日時で実施する場合には、事前に甲に協議し承認を得ること。

(3) 調査箇所と調査周期

上記 5 (1) について、原則、半年に 1 回実施すること。（「調査特別箇所」を除く。）

「調査特別箇所」

調査箇所		調査周期
発生しやすい箇所	食料を取り扱う区域（地下厨房以外）、汚水槽、雑排水槽、湧水槽、浄化槽、雨水枡、排水溝、阻集器（グリストラップ）、廃棄物の保管庫等	2 箇月に 1 回
特に発生しやすい箇所	地下厨房	1 箇月に 1 回

(4) 調査項目と調査内容

調査項目	調査内容
聞き取り調査	ねずみ、ゴキブリ、蚊、ハエ・コバエ、ダニを対象として、施設管理担当者又は建築物各区域の職員から目撃情報、被害状況を聞き取る。
調査項目	調査内容
目視による調査	<p>ねずみ、ゴキブリ、蚊、ハエ・コバエを対象として、以下の調査を実施する。</p> <p>ねずみ：建築物の区画ごとに、次のような証跡（ラットサイン）を調査する。調査項目は、糞、尿によるシミ、足跡、嚙り跡、こすり跡（ラブサイン）、鳴き声、侵入場所（穴）、営巣場所等の有無を確認する。</p> <p>ゴキブリ：建築物の区画ごとに証跡を調査する。調査項目は、虫体、糞、ローチスポット、卵鞘の有無を確認する。</p> <p>蚊、ハエ・コバエ：建築物全体を巡回調査する。調査項目は、成虫の存在、発生源、外部発生源との関連などを確認する。</p>
トラップ等による調査	<p>喫食調査、足跡調査</p> <p>ねずみを対象として、以下の調査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none">・天井の点検口などに無毒餌を配置して、その喫食状況から生息状況を確認する。・天井の点検口など、ねずみの往来しそうな箇所に黒紙を配置し、足跡の付着の程度から生息状況を確認する。 <p>粘着トラップ調査</p> <p>ゴキブリを対象として、以下の調査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none">・建築物の区画ごとに、ゴキブリ用粘着トラップを生息が多い箇所では 3～7 日を過去の実績を目安に設置し、捕

	<p>獲指数を算出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配置数は、発生しやすい箇所及び特に発生しやすい箇所では5 m²に1枚、事務室など発生のおそれのある場所に25～50 m²に1枚を目安に、過去の実績に基づき決定する。 ・建築物の1区画に配置したトラップ数が10個以下の場所にあつては、捕獲数の多いトラップ上位3つまでを、また、トラップ数を10個より多く配置した場所にあつては、配置数の30%を目安に捕獲数上位のトラップを捕獲指数の算出に用いる。 ・なお、上位3つまで又は30%までに0が含まれる場合は、これも捕獲指数の算出に加える。なお、卵鞘から孵化した1令幼虫は加えない。 <p>蚊、ハエ、コバエを対象とした調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厨房及び浄化槽のある区域や発生しやすい箇所や過去の調査結果から発生の多い箇所には、ライトトラップや粘着シート、ハエ取りリボンを、14日以内を目安に設置する。
環境及び施設・設備の調査	<p>環境調査</p> <p>① 清掃状況を調査する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厨房機器、流し台、床、排水溝などに厨芥類が付着していないか、清潔になっているか。 ・阻集器（グリストラップ）や汚水槽、雑排水槽が定期的に清掃され、腐敗した有機物が付着していないか。 <p>② 整理整頓状況を調査する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・棚の整理が乱雑で、ダンボールや包装材が放置されていないか。 <p>③ 食物管理状況を調査する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食物や食品材料が放置されていないか。 <p>④ 厨芥類の管理状況を調査する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厨芥類が放置されていないか、ゴミ箱は清掃されて厨芥類が付着していないか。 <p>施設・設備の調査</p> <p>① 建築物周囲に外部から侵入できる隙間がないか。</p> <p>② パイプシャフト周囲など垂直に移動できる隙間がないか。</p> <p>③ 壁、天井、床、カウンター、食器棚周辺に隙間がないか。</p> <p>④ 排水系統からねずみが侵入できない構造になっているか。</p> <p>⑤ 厨房機器の下部は清掃ができる構造になっているか。</p> <p>⑥ 窓に網戸が設置されているか。</p>

(5) 調査結果の判定（目標水準）と措置

食物管理や施設改善など、委託者による措置が必要な場合は、病院担当者に提案する。

目標水準と措置

対象生物	許容水準	警戒水準	措置水準
判定結果に基づく措置	定期的な調査を継続する。 ただし、特に発生しやすい箇所においては、半年に1回以上警戒水準における防除作業を実施すること。	当該区域に対して発生防止対策を講じるとともに、必要に応じて、施設改善及び防除作業を実施する	発生源や当該区域に対して発生防止対策を講じるとともに、施設改善及び防除作業を実施する。
ねずみ	以下全てに該当 ① 生きたねずみが確認されない ② 配置した無毒餌が喫食されない ③ 天井等に配置した紙に足跡や嚙り跡が付かない	以下全て該当 ① 生きたねずみが確認されない ② 無毒餌が喫食されるか、配置した紙に足跡や嚙り跡が確認される	以下1つ以上に該当 ① 生きたねずみが確認される ② 食品や家具・什器等に咬害が見られる
ゴキブリ	以下全て該当 ① トラップによる捕獲指数が0.5未満 ② 生きたゴキブリが目撃されない	以下1つ以上に該当 ① トラップによる捕獲指数が0.5以上1未満 ② 生きたゴキブリが僅かに目撃される	以下1つ以上に該当 ① トラップによる捕獲指数が1以上 ② 生きたゴキブリがかなり目撃される
蚊	以下全て該当 ① トラップによる捕獲指数が1未満 ② 屋内に生きた蚊が目撃されない	以下1つ以上に該当 ① トラップによる捕獲指数が1以上3未満 ② 屋内に生きた蚊が僅かに目撃される	以下1つ以上に該当 ① トラップによる捕獲指数が3以上 ② 屋内で吸血される。
ハエ・コバエ	以下全て該当する場合 ① ハエはトラップによる捕獲指数が1未満。コバエ類は3未満 ② 生きたハエ・コバエ類が目撃されない	以下1つ以上に該当 ① ハエはトラップによる捕獲指数が1以上5未満。コバエ類は3以上5未満 ② 生きたハエ・コバエ類が僅かに目撃される	以下1つ以上に該当 ① ハエはトラップによる捕獲指数が5以上。コバエ類は5以上 ② 生きたハエ・コバエ類が多数目撃される

ダニ			以下 1 つ以上に該当する場合は、「 ダニの生息実態調査 」を実施 ①屋内で刺咬される ②ダニアレルギーが発症する
----	--	--	--

「ダニの生息実態調査」

被害発生のおそれのある箇所や措置水準に該当した場合は、以下の方法のいずれかにより調査する。

調査方法	作業内容
粘着式クリーナーによる調査	ローラー式の粘着クリーナーにより床面をころがし、付着したダニを実体顕微鏡下で観察する。
飽和食塩水浮遊法による調査	掃除機で採集した塵からダニを分離する方法で、飽和食塩水に塵を入れ、よく攪拌し、その上澄み液をろ紙上に展開し、実体顕微鏡下で拾い出し、顕微鏡標本を作成し生物顕微鏡で同定する。
ダニ簡易検査キットによる調査	ダニ虫体に由来する Der2 アレルゲンに特異的に反応するモノクローナル抗体を用いた検査キットで、掃除機で採集した塵を入れた抽出液に試験紙を反応させ、その発色の度合いでアレルゲン量を測定する。

6 ねずみ・昆虫等の防除

(1) 防除作業等

調査結果の判定に基づき、「発生防止対策」「施設改善」「防除作業」措置の提案書・作業計画を作成し、甲に提出し承諾を得ること。

防除作業に先立ち、作業終了後、死鼠の処分や殺鼠剤、トラップを撤収し、安全に配慮する。

殺虫剤や殺鼠剤を使用する場合は、薬事法で承認を受けたものを用法、用量、使用上の注意を守って使用すること。

(2) 事前通知

薬剤を使用する場合は、少なくとも 3 日前までに使用薬剤名、実施場所、においの程度、化学物質などに対する過敏者への注意等を記載した事前通知を作成し、実施 3 日後まで、当該区画入口等の見やすい場所に掲示すること。

トラップ等を使用する場合は、トラップの種類、設置場所、数等を記載すること。

(3) 効果判定

防除作業終了後、措置を行った箇所に対して、5 の調査と同じ方法により、効果判定を行う。

別途、委託者による措置が必要な場合は、甲に提案する。

(4) 再作業

効果判定によって措置水準に該当する場合には、再度調査により問題点を明らかにし、再作業を行うこと。

(5) 留意事項

- ① ねずみ・昆虫等の防除のため殺鼠剤又は殺虫剤を使用する場合は、薬事法規定による承認を受けた医薬品又は医薬部外品を用いること（昭和 35 年法律第 145 号第 14 条又は第 19 条の 2）。
- ② 薬剤等は、使用及び管理を適切に行い、病院関係者（利用者、病院職員、委託職員等）及び作業従事者の事故の防止に努めること。
- ③ 防除作業を行う場合は、事前に当該区域の管理者や利用者の了解を得るとともに、作業前後少なくとも 3 日間は、その旨の掲示を行うこと。
- ④ ねずみ・昆虫等の防除作業終了後は、必要に応じ、強制換気や清掃等を行うこと。
- ⑤ 作業終了後、死鼠の処分や殺鼠剤、トラップ等を全て撤収し、安全に配慮すること。
- ⑥ ねずみ・昆虫等の防除作業に用いる機械器具、その他の設備については、定期点検及び必要に応じた整備又は修理を行い、安全が確保されたものを使用すること。
- ⑦ ねずみ・昆虫等の防除作業に係る苦情又は緊急の連絡に対して、迅速に対応できる体制を整備しておくこと。

「発生防止対策」

作業項目	作業内容
食物管理	食品倉庫を密閉する。野菜等を冷蔵庫や密閉されたキャビネットに収納する。 厨芥類は始末し、使った食器などは、洗浄後、戸棚に格納する。
清掃管理	① 厨房の床は業務終了後に清掃し、厨房機器の上部、下部や裏側に残菜を残さないように片付ける。床の水分も拭き取る。 ② 棚や引き出しは整理整頓し、ダンボール箱などを片付ける。 ③ 排水溝やグリストラップを清掃し、厨芥類は処分する。 ④ ゴミ箱は業務終了後に洗浄し、内部に厨芥類を残さない。

「施設改善」

作業項目	作業内容
防鼠工事	ねずみの侵入口及び侵入のおそれのある箇所を金属板、金網、防鼠パテ等で塞ぐ。
隙間コーキング	ゴキブリの潜み場所となる隙間や割れ目をコーキング剤等によって塞ぐ。
ピットの設置	蚊やコバエの防除にあたり、マンホールがない水槽では、薬剤投入のため床面に小さな穴（ピット）を設ける。
水槽内部の清掃	ハエ・コバエの発生源となる水槽は、水面のスカム、壁面、マンホール蓋裏面を清掃し、汚れを除去する。

「ねずみの防除方法」

作業項目	作業内容	警	措
------	------	---	---

		戒	置
毒餌処理	ねずみの生息場所、通路、餌場、休息場所等に毒餌皿に入れて配置する。食料品に混入するおそれのある箇所、子供やペットがいる場所では、毒餌箱に入れて配置する。 喫食が見られる間は継続して点検することが望ましい。	○	○
粘着トラップによる防除	① ねずみが出没する箇所に夜間配置し、始業前に回収する。なお、生息数の多い場所では1枚/㎡以上配置する。 ② 天井裏等侵入のおそれのある箇所に配置する。	○	○
捕鼠器による防除	① 圧殺式トラップ（パチンコ）又は生捕り式トラップを配置する。人が出入りする箇所では、安全に十分配慮し、取り扱いに注意する。 ② 天井裏等、侵入のおそれのある箇所に配置する。	○	○

「ゴキブリの防除方法」

作業項目	作業内容	警戒	措置
毒餌処理	ゴキブリ用ベイト剤又は容器入りのものを配置する。	○	○
殺虫剤の散布処理	ゴキブリの生息場所となる隙間や割れ目、徘徊場所に重点処理する。	○	○
ULV処理	ピレスロイド系の水性乳剤を用法、用量に基づいて、電動式ULV機、ノズル式ULV機、炭酸ガス製剤噴出機等により処理する。	—	○
蒸散剤の散布処理	ジクロロボス樹脂蒸散剤をセットした蒸散剤殺虫機により、用法・用量・使用上の注意に基づき室内に薬剤を充満させる。	—	○

「蚊の防除方法」

調査の結果に基づき、発生場所、生息場所及び侵入経路ならびに被害の状況等から、下記に示す方法、その他有効な方法を組み合わせて防除作業を実施する。

作業項目	作業内容	警戒	措置
殺虫剤の散布処理	幼虫が発生する水域に薬剤を用法用量に基づいて散布する。	○	○
LV処理	蚊の発生しているマンホール内部及び飛翔区域に、ピレスロイド系の水性乳剤をULV機、ノズル式ULV機、炭酸ガス製剤噴出機等により処理する。	—	○
散剤による処理	ジクロロボス又はピレスロイド系の樹脂蒸散剤を用	○	○

	法、用量に基づいて、マンホール内部に吊るす。		
ライトトラップによる防除	発生のおそれのある区域には、粘着シート式ライトトラップを設置する。	○	○

「ハエ・コバエ類の防除方法」

作業項目	作業内容	警戒	措置
殺虫剤の散布処理	幼虫の発生源に薬剤を用法・用量に基づいて散布する。	○	○
U L V 処理	コバエ類が発生しているマンホール内部及び飛翔区域に、ピレスロイド系の水性乳剤を電動式U L V機、ノズル式U L V機、炭酸ガス製剤噴出機等により処理する。食料を扱う区域では、ビニールシート等で養生する。	—	○
蒸散剤による処理	ジクロロボス又はピレスロイド系の樹脂蒸散剤を用法、用量に基づいて、マンホール内部に吊るす。	○	○
ライトトラップによる防除	発生のおそれのある区域には、粘着シート式ライトトラップや粘着トラップを設置する。	○	○

「ダニの防除方法」

ダニの生息実態調査の結果に基づき、次の方法等により、適切な防除作業を行う。

作業項目	作業内容	措置
殺虫剤の散布処理	被害の訴えのある箇所に全自動噴霧機により重点処理する。	○
U L V 処理	ピレスロイド系の水性乳剤を用法、用量に基づいて、電動式U L V機、ノズル式U L V機、炭酸ガス製剤噴出機等により噴霧する。	○
加熱処理	布団、畳は布団乾燥車で内部温度を 60℃で 2 時間、加熱乾燥させる。	○